

博士前期課程 コーチング実践学学位プログラム

養成する人材とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの関係

養成する人材

コーチング領域に関する幅広い学識に基づいた研究能力と高度で専門的なコーチング実践力によってスポーツ現場での指導を行える能力とともに、高いコミュニケーション力と交渉力をもち現場の課題解決能力を兼ね備えたコーチやコーチデベロッパーを養成する。

例

コーチ育成者(Coach Developer)

競技スポーツに関する高度職業人、ジャーナリスト

高度なコーチング能力やマネジメント能力を有するスポーツコーチ・指導者、中学校・高等学校教員

ディプロマ・ポリシー

本学大学院学則に規定する所定の年限以上在学し、本学の教育研究の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、実践課題学期小論文(仮称)の審査に合格した上で、次の能力を有することが認定されたものに修士(コーチング実践学)の学位を授与する。

体育スポーツ科学に関する幅広い学識

コーチング実践関にする専門的知識と技能

コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力

国際社会に貢献する意志とコミュニケーション力

カリキュラム・ポリシー

①体育学研究科共通科目(必修 10単位)

体育スポーツ科学に関する幅広い学識を身につける。特に体育スポーツ科学研究法では、統計学の基礎、各分野の研究法概論、研究倫理について学ぶ。研究報告演習では、自身の研究内容を他コースの院生にも理解できるように発表する能力、他分野の研究を理解しディスカッションできる能力などを身につける。

②基礎科目(選択必修 8単位)

コーチングに関する学識と専門的知識、コーチング学の研究法を学び、コーチおよびコーチ育成者としての基礎的能力を身につける。

③展開科目(選択 8単位以上)

体育スポーツ科学に関する幅広い学識と専門的知識を広げる(横の発展)、あるいはコーチング学に関するより高度な知識やコーチ育成に関する能力を身につける(縦の発展)。

④研究指導科目(必修 4単位)

上述した科目を履修するとともに、修士論文に代えて、指導現場におけるコーチング実践報告や指導法(コーチング法)試案等を「実践課題学期小論文Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」にまとめて発表し、審査を受ける。なお、審査は原則として、Ⅰは1年次後期、Ⅱは2年次前期、Ⅲは2年次後期の学期末に行う。

授業以外の活動

学内発表会

国内外の学会発表

実験

調査

計測

データ分析

勉強会とセミナー

共同研究

体育スポーツ指導

他大学連携事業

TA(ティーチングアシスタント)

情報機器の操作